



森野賽郭 篇3

日本最古の薬園

享保14年(1729)、森野賽郭が宇陀松山で開いた薬園。数少ない民間の薬園として後継者達に受け継がれ、現在は「森野旧薬園」とよばれています。

江戸時代には、各地に多くの薬園がありました。幕府の薬園、諸藩の薬園、私設薬園が設けられていました。幕府開設の薬園としては、3代将軍 徳川家光によって寛永15年(1638)に大塚と麻布へと伝えられます。その後、大塚御薬園は、麻布御薬園へ統合され、貞享元年(1684)には、麻布御薬園に代わって新たに小石川御薬園が開設されました。諸藩の薬園も設けられましたが、明治維新で政治体制が大きく変わったことから、これらの薬園の大半が閉鎖・廃止となりました。

当時の状態を今に残している薬園は、ほとんどなく、全国で国の史跡に指定されている薬園は、森野旧薬園、佐多旧薬園(鹿児島)、旧島原藩薬園跡(長崎県)に過ぎません。また、小石川御薬園を起源とする小石川植物園(東京都)は、国の名勝および史跡に指定されています。薩摩藩の佐多薬園は、貞享4年(1687)に開設、島原藩薬園は、弘化3年(1846)に開設されましたが、明治時代には、いずれも廃止となっています。

これに対して、民間薬園の森野旧薬園は、薬園の状況が現在に至るまで永く保たれており、当時の建物も残っています。現存最古の薬園といえるでしょう。

今も園内には、多くの薬草木が植えられています。西斜面で見ることができる老木の山茱萸せんしゅゆは、享保14年の開園当初のものといわれています。販売しました。

